

ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書 (2022年12月分)

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

大学生活について

大学での授業は相変わらずオンライン授業が多く、登校は週に一度程度でした。授業時間外に学生同士でグループワークを進め、授業時にプレゼンテーションを行うという流れを毎週繰り返しました。12月末をもって、前期授業がすべて終了しました。後期の始まる2月まで長期休暇に入りますが、有意義に課外活動に取り組みたいと思います。

課外活動

12月は主に2つの大きな活動がありました。

一つは、踊りの先生の住む地域にある集会所の周年祭です。この周年祭はバリの暦の一年である210日に一度行われるもので、一カ月ほど前から地域住民が協力し合って準備が行われます。私は一人で奉納舞踊を踊らせていただくことに決まり、週に2.3回の頻度で一カ月間集会所の練習に参加しました。自分が踊る踊り以外にも、他の踊りの練習や、ガムランの奉納演奏の練習にも参加したことで、さまざまな曲を少しずつ覚えることができました。また本番当日は、自分の踊りの支度に加えて、同じく奉納舞踊を踊る中学生たちの化粧や衣装の着付けも担当しました。踊りの化粧や着付けは非常に時間がかかり、人手も必要です。まだまだ勉強中の身ではありますが、こうして準備に携わることができ嬉しく思います。一方で本番の自分の踊りは思うようにはいかず、反省すべき点の多い結果となりました。しかし、単に当日踊るだけではなく、本番までの練習期間や当日準備等の過程と一緒に参加させてもらえたことに感謝します。

二つ目は、舞踊のコンテストを見学したことです。バリでは、舞踊や演奏をはじめとするさまざまなコンテストが頻繁に開催されます。今回のコンテストは12歳以下の子どもが対象であり、バリ舞踊の基本的な動きが凝縮された演目が課題曲として用いられていました。その課題演目の巨匠として知られる私の先生が審査員を務めるということで、私も一緒に見学しました。参加者は20人以上もおり、司会者のアナウンスに従って2人ずつ順番にステージで踊ります。さまざまな舞踊教室から集まった参加者のレベルはさまざまですが、こうした経験を重ねることで互いに刺激し合い、練習を重ねてゆくのだろうと感じました。また最後の結果発表では、「入賞しなかったみんなも、落胆せずに、これから良くなるように練習を続けましょうね。」といった審査員によるコメントが印象的でした。コンテストは競争ではありますが、ただ競うだけではなく、目標を持って練習を積み重ねるためのプロセスの一つとして有効な場であるのだと思いました。



⇐周年祭当日まで
定期的に行われていた練習
⚡ 当日、化粧と着付けを済ませて
↓ 無事踊りきりました



↓ コンテストの審査中



↓ 表彰式

